

当たり前前のごことが大事にされる年に 今年も全力でがんばります



【サザンカ】ツバキ科の常緑広葉樹。原種のサザンカは寒さに弱く、九州や四国など比較的温暖なところが北限です。雪国に植えられているものは園芸種が多く、寒さにも耐えられるようになっていきます。花は晩秋から初冬頃まで。花言葉は色によって違います。写真の花は赤です。花言葉は「あなたがもっとも美しい」。写真は12月24日、木田の市役所駐車場脇にて撮影しました。

新型コロナウイルス対策で4回目の提言

市議会新型コロナウイルス対策特別委員会は12月15日、新型コロナウイルス対策の4回目の提言をまとめ議長に提出しました。そして18日には、正副委員長が市役所の高橋理事を通して村山市長に提出しました。

これら対策はすぐに実行してもらいたいものばかりです。市の新年度予算にも反映させてほしいものです。

以下は提言の主な内容です。

1 インフルエンザ流行期における受診方法の周知：県の取扱いが変更になった点などを含め、インフルエンザ流行期に向けて更に周知を強化すること。

2 子育て世帯への支援：2020年4月27日現在の母子手帳所持者に市独自の特別定額給付金を支給すること。

3 市内事業者への支援継続及び新たな補助金の創設：「プレミアム付商品券発行事業補助金」の継続、「事業者応援給付金」(20〜50%売上減が対象)の継続、「中小企業者チャレンジ応援事業補助金」の対象事業者拡充及び継続など。

4 執行率の低い補助金等の周知の徹底や制度設計の見直し：事業者への周知の徹底・広報の強化、原因分析と制

度設計などを見直しを進めること。

公の施設「再配置」に関する請願は不採択に

公の施設の「適正配置」計画案については、「市民の納得を得る説明努力を尽くすことを求める」という請願は本会議でも賛成少数で不採択となりました。

この請願は、「計画案策定にあたって、市民の意見の聴取や説明が丁寧ではないとの声がある」などとして市民団体「住民自治を進める会」(佐藤忠治代表)から提出されていたものです。

14日の本会議では採決にあたり、市民クラブの牧田議員が日本共産党議員団と共同で討論原稿をまとめ、賛成討論を行いました。討論では、「現存施設の多くは、それぞれが地域の拠点であったり、交流の場・生涯教育の場・地域コミュニティの場であるなど、市民の暮らしに大きく影響する施設。市民の納得を得る努力を尽くすことを求めることは当然」と述べました。

ところが、多くの議員は「請願書の文に誤りがある。行政は丁寧にはやらない」として採択に反対し、賛成は日本共産党議員団と市民クラブ、丸山議員の6名(うち3名)のみであった。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1992 2021.1.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

当たり前前の方が大事にされる年に 今年も全力でがんばります



【サザンカ】ツバキ科の常緑広葉樹。原種のサザンカは寒さに弱く、九州や四国など比較的温暖なところが北限です。雪国に植えられているものは園芸種が多く、寒さにも耐えられるようになっていきます。花は晩秋から初冬頃まで。花言葉は色によって違います。写真の花は赤です。花言葉は「あなたがもっとも美しい」。写真は12月24日、木田の市役所駐車場脇にて撮影しました。

新型コロナウイルス対策で4回目の提言

市議会新型コロナウイルス対策特別委員会は12月15日、新型コロナウイルス対策の4回目の提言をまとめ議長に提出しました。そして18日には、正副委員長が市役所の高橋理事を通して村山市長に提出しました。

これら対策はすぐに実行してもらいたいものばかりです。市の新年度予算にも反映させてほしいものです。

以下は提言の主な内容です。

1 インフルエンザ流行期における受診方法の周知：県の取扱いが変更になった点などを含め、インフルエンザ流行期に向けて更に周知を強化すること。

2 子育て世帯への支援：2020年4月27日現在の母子手帳所持者に市独自の特別定額給付金を支給すること。

3 市内事業者への支援継続及び新たな補助金の創設：「プレミアム付商品券発行事業補助金」の継続、「事業者応援給付金」(20～50%売上減が対象)の継続、「中小企業者チャレンジ応援事業補助金」の対象事業者拡充及び継続など。

4 執行率の低い補助金等の周知の徹底や制度設計の見直し：事業者への周知の徹底・広報の強化、原因分析と制

度設計などを見直しを進めること。

公の施設「再配置」に関する請願は不採択に

公の施設の「適正配置」計画案については、「市民の納得を得る説明努力を尽くすことを求める」という請願は本会議でも賛成少数で不採択となりました。

この請願は、「計画案策定にあたって、市民の意見の聴取や説明が丁寧ではないとの声がある」などとして市民団体「住民自治を進める会」(佐藤忠治代表)から提出されていたものです。

14日の本会議では採決にあたり、市民クラブの牧田議員が日本共産党議員団と共同で討論原稿をまとめ、賛成討論を行いました。討論では、「現存施設の多くは、それぞれが地域の拠点であったり、交流の場・生涯教育の場・地域コミュニティの場であるなど、市民の暮らしに大きく影響する施設。市民の納得を得る努力を尽くすことを求めることは当然」と述べました。

ところが、多くの議員は「請願書の文に誤りがある。行政は丁寧に行っている」として採択に反対し、賛成は日本共産党議員団と市民クラブ、丸山議員の6名(うち3名)のみであった。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1992 2021.1.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

いまも床下の穴蔵(あなぐら)を使っていらつしやる家があるんですね。先日、大島区のT子さん宅でお茶をご馳走になった際、知りました。

話し始めてじきにT子さんが「大根穴に入れとけば……」という話をされました。私は「芋蔵」とか「穴蔵」という言葉は知っていましたが、「大根穴」は初めて出合った言葉です。すぐに、「大根穴、そう言っがですか」と聞き直しました。

間違いありませんでした。「大根穴」と言うのだそうです。私が知っている「芋蔵」は、床下に穴を掘って芋類などを冬の間保存する場所です。それと同じものなのかどうか知りたくなりました。

T子さん宅にある「大根穴」は台所にあります。縦六〇センチ、横九〇センチ、深さは一センチほどの大きさです。ここには大根だけでなく、ニンジンやゴボウ、ヤツガシラなどが入れてありました。いずれもビニール袋やポリの桶の中に入れて、しまっていました。私の知っている「穴蔵」と構造は基本的に一緒でした。台所の他にも「穴蔵」があるらしく、T子さんは「昔の知恵だじゃねえ。外に出ねでいいすけ、楽だね」と言っておられました。

ヤーコンやカボチャ料理をいただきながら、T子さんとお茶飲みをしてわかったのは、T子さん宅では、「昔の知恵と暮らし」をしつかり引き継ぎ、「今の知恵」も活かした暮らし方をされているということでした。

私の正面には昔からの食器棚が置いてありました。いまの食器棚ならガラス戸がはめられていて、中に何が入っているか見えます。しかし、M子さん宅の食器棚は木製の戸です。中はまったく見えません。

「ガラス戸の方が便利なのはわかっているけど、木の戸の方が落ち着くんですよね」近くにある「ジョウウヨウバシラ」(大黒

柱)についても話が広がりました。

「昔は又カガマのけびで柱、真っ黒になつたこてね。それを包丁で削ると、肌の赤が出た。若い頃は嫌だったけど、これも、いまは落ち着くんだよ。旅に出たしよなんかは、ジョウウヨウバシラ見て、抱きつく人もいなる」

私も似た体験がありますから、こういう話はよく理解できます。

先ほど「今の知恵」と書きましたが、この日は、ヤーコンやカボチャの他にもご馳走になったものがありました。「これ、やわらかいすけ、食べてみてくんない」そう言って、出された干し芋です。干し芋と言えば、茨城産が有名ですが、T子さん宅では自分の家で作っておられました。

T子さんによれば、干し芋を作る方法は二つ。その一つは、石油ストーブの前に切った芋を置いて乾かす方法で、出来上がりまでには二、三日かかるといいます。いま一つは、ストーブの熱をコタツに引き込む筒先に置く方法です。こちらの方が出来るまでの時間が早いとか。確かに、こういうのは昔はありませんでした。

T子さんとの話は、この日、三〇分以上にも及びました。考えてみれば、T子さんとはかなり前からの知り合いです。一緒にお茶を飲んだのは初めてです。とてもいい時間を過ごさせてもらいました。

帰りしなに、食器棚の隣を見たら、どこかで見だしたことのある大きなポスターが貼ってありました。真ん中には「おらちの『ごっつお』、めしあがれ」と白抜きで文字。上越市のポスターです。

ポスター写真、大きな囲炉裏を囲んで親子四人が笑顔で食事をしています。そして大きなシャモジで湯気の立った煮物を茶碗によそっているのはT子さん本人でした。

新年は、旅に出ているしよとも一緒に「ごっつお」を食べられる年らしい。

私が選んだ2020年の10大ニュース

- ①新型コロナウイルス感染症、全国でまん延。
4月には上越でも感染者。新型コロナは市民生活に重大な影響。
- ②市議会でも新型コロナウイルス感染症対策特別委員会が発足。
市民生活、市内経済、教育などで市長に4回にわたる提言書提出。日本共産党議員団(写真右)も4回にわたり市に要請。
- ③記録的少雪。
新型コロナとダブルで各分野に影響。(株)キューピットバレイも解散。
- ④吉川区町田で前方後円墳発見。
- ⑤市議選で日本共産党議員団は3議席にとどまる。女性議員は0から一挙に7人に。元市長がトップ。
- ⑥市内各地で鳥獣被害広がる。
イノシシ被害は深刻。11月には、クマの人身被害も。
- ⑦佐渡汽船(株)、小木直江津航路の「あかね」売却方針示す。
- ⑧公の施設の「再配置」「適正配置」めぐり議会や地域協議会で議論。
- ⑨柏崎刈羽原発から30キロ圏内の議員が集まり、研究会発足。再稼働の賛成、反対を越えて、立地自治体並みの安全協定めざす。
- ⑩再びコウノトリが上越市に飛来。
8月は吉川区、10月は柿崎区、11月、12月には大潟区に飛来し、話題に。



キラキラ大作戦、今年も

歌に、抽選会に、冬の花火。新型コロナを吹き飛ばそうと、今年も吉川区原え町商店街で「キラキラ大作戦」が賑やかに行われました。区内外から大勢の皆さんが特設会場を訪れ、楽しみました。

イラストは素敵な歌を響かせた山崎弘子さん率いる「J.O.Y. Gospel」の皆さんと上越大の学生のアカバラグループの皆さんです。

【公職選挙法と年賀状】公職選挙法で議員が出す年賀状については制限があります。自らの選挙区内では、年賀状が来た時に返信として出す場合にかぎって出すことが認められています。ただし、その場合も自筆によることが条件。

いまも床下の穴蔵(あなぐら)を使っていらつしやる家があるんですね。先日、大島区のT子さん宅でお茶をご馳走になった際、知りました。

話し始めてじきにT子さんが「大根穴に入れとけば……」という話をされました。私は「芋蔵」とか「穴蔵」という言葉は知っていましたが、「大根穴」は初めて出合った言葉です。すぐに、「大根穴、そう言っがですか」と聞き直しました。

間違いありませんでした。「大根穴」と言うのだそうです。私が知っている「芋蔵」は、床下に穴を掘って芋類などを冬季間保存する場所です。それと同じものなのかどうか知りたくなりました。

T子さん宅にある「大根穴」は台所にあります。縦六〇センチ、横九〇センチ、深さは一センチほどの大きさです。ここには大根だけでなく、ニンジンやゴボウ、ヤツガシラなどが入れてありました。いずれもビニール袋やポリの桶の中に入れて、しまっていました。私の知っている「穴蔵」と構造は基本的に一緒でした。台所の他にも「穴蔵」があるらしく、T子さんは「昔の知恵だじゃねえ。外に出ねでいいすけ、楽だね」と言っておられました。

ヤーコンやカボチャ料理をいただきながら、T子さんとお茶飲みをしてわかったのは、T子さん宅では、「昔の知恵と暮らし」をしつかり引き継ぎ、「今の知恵」も活かした暮らし方をされているということでした。

私の正面には昔からの食器棚が置いてありました。いまの食器棚ならガラス戸がはめられていて、中に何が入っているか見えます。しかし、M子さん宅の食器棚は木製の戸です。中はまったく見えません。

「ガラス戸の方が便利なのはわかっているけど、木の戸の方が落ち着くんですよね」近くに「ジョウウヨウバシラ」(大黒

柱)についても話が広がりました。

「昔は又カガマのけびで柱、真っ黒になつたこてね。それを包丁で削ると、肌の赤が出た。若い頃は嫌だったけど、これも、いまは落ち着くんだよ。旅に出たしよなにかは、ジョウウヨウバシラ見て、抱きつく人もいなる」

私も似た体験がありますから、こういう話はよく理解できます。

先ほど「今の知恵」と書きましたが、この日は、ヤーコンやカボチャの他にもご馳走になったものがありました。「これ、やわらかいすけ、食べてみてくんない」そう言って、出された干し芋です。干し芋と言え、茨城産が有名ですが、T子さん宅では自分の家で作っておられました。

T子さんによれば、干し芋を作る方法は二つ。その一つは、石油ストーブの前に切った芋を置いて乾かす方法で、出来上がりまでには二、三日かかるといいます。いま一つは、ストーブの熱をコタツに引き込む筒先に置く方法です。こちらの方が出来るまでの時間が早いとか。確かに、こういうのは昔はありませんでした。

T子さんとの話は、この日、三〇分以上にも及びました。考えてみれば、T子さんとはかなり前からの知り合いです。一緒にお茶を飲んだのは初めてです。とてもいい時間を過ごさせてもらいました。

帰りしなに、食器棚の隣を見たら、どこかで見だしたことのある大きなポスターが貼ってありました。真ん中には「おうちの『こつこつお』、めしあがれ」と白抜きの文字。上越市のポスターです。

ポスター写真、大きな囲炉裏を囲んで親子四人が笑顔で食事をしています。そして大きなシャモジで湯気の立った煮物を茶碗によそっているのはT子さん本人でした。

新年は、旅に出ているしよとも一緒に「こつこつお」を食べられる年になりた。

私が選んだ2020年の10大ニュース

- ①新型コロナウイルス感染症、全国でまん延。
4月には上越でも感染者。新型コロナは市民生活に重大な影響。
- ②市議会でも新型コロナウイルス感染症対策特別委員会が発足。
市民生活、市内経済、教育などで市長に4回にわたる提言書提出。日本共産党議員団(写真右)も4回にわたり市に要請。
- ③記録的少雪。
新型コロナとダブルで各分野に影響。(株)キューピットバレイも解雇。
- ④吉川区町田で前方後円墳発見。
- ⑤市議選で日本共産党議員団は3議席にとどまる。女性議員は0から一挙に7人に。元市長がトップ。
- ⑥市内各地で鳥獣被害広がる。
イノシシ被害は深刻。11月には、クマの人身被害も。
- ⑦佐渡汽船(株)、小木直江津航路の「あかね」売却方針示す。
- ⑧公の施設の「再配置」「適正配置」めぐり議会や地域協議会で議論。
- ⑨柏崎刈羽原発から30キロ圏内の議員が集まり、研究会発足。再稼働の賛成、反対を越えて、立地自治体並みの安全協定めざす。
- ⑩再びコウノトリが上越市に飛来。
8月は吉川区、10月は柿崎区、11月、12月には大潟区に飛来し、話題に。



大島区の魅力いっぱい写真展

大島区総合事務所玄関ホールで大島区「景観いきいき写真コンクール」の作品展示がされています。ずらりと並んだ写真を見て惚れ惚れしました。ナナ林や棚田、保倉川、そして伝統行事の素敵なところを見事に切りとっていたからです。内山勝彦さんや早川丈夫さんなどのモデルだけでなく、多くの方がいい写真を撮られますね。写真上は本山ミヤ子さん撮影です。

【公職選挙法と年賀状】公職選挙法で議員が出す年賀状については制限があります。自らの選挙区内では、年賀状が来た時に返信として出す場合にかぎって出すことが認められています。ただし、その場合も自筆によることが条件。